

「ISOE 職業被ばくデータベース」

Mr. Brian Ahier (OECD/NEA)

ISOE は、職業被ばくデータの収集、経験の蓄積をグローバルに行うためのプログラムであり、2つの国際組織（OECD/NEA と IAEA）によってサポート・運営されている。被ばく管理を容易にするための放射線防護経験の共有が特徴であり、単なる被ばくデータベースではない。最新知見や取組みも含めて共有化を図っている。

ISOE データベースには、現在、471 基のデータ（内訳：運転中が 395 基、停止中が 76 基）だけでなく、参加していないイギリスのガス炉のデータや米国のデータも収録されている。どのようなデータが入っているかについては、ISOE 1~3 の質問内容を見て頂きたい。炉型ごとの線量トレンドのデータもある。そのようなデータは年次報告書にも反映されている。

ISOE データベースは、ISOE ネットワークのウェブ上からアクセス可能である。ただし、アクセスには制限があり、ISOE データベースは事業者や規制当局がアクセスできるが、どこまでアクセスできるかが異なる。事業者はフルアクセスできるが、規制当局は限定アクセスとなる。又、データ分析ツール MADRAS を利用して、国レベル、地域レベルの線量、炉タイプあるいはユニット単位の線量等、様々なグラフを作成して分析することができる。ISOE データベースを更に積極的に活用して頂きたい。

